

フクロモモンガが家にやってきたら…

かわいいフクロモモンガがあなたにやってきたら、早くふれあい可愛がってあげなごとでじょう。でも、フクロモモンガは初めての場所、初めての人には会って極度の緊張状態です。あなたにお迎えをしたら、清潔で安心できる環境を整えて、しばらくはそっと見守りながら安全であることを確認させてあげて下さい。環境に慣れ始めても、ふれあいを強要しないようにして下さい。フクロモモンガにとって、急に捕まえられる事は大変なストレスになります。優しく声をかけながら、少しづつ触れ合う時間を増やしていくようにしましょう。

しつけと称して、叩いたり、罰を与えないで下さい。

フクロモモンガは「叱るしつけ」には向かない生き物です。

警戒心が強く、ストレスに弱いフクロモモンガにとって、強い衝撃は体に影響が大きすぎ、罰を与えることで人を嫌い、更に臆病な性格になる恐れがあります。

あなたでのルールは叱って教えるのではなく、臭い等で誘導したり、興味を示さないように、はじめから取り除いておくように心がけましょう。

フクロモモンガと接する時の注意

むやみにフクロモモンガを驚かせない



フクロモモンガは警戒心が強い生き物です。触れ合う事を強要したり、近くで大声や大きな音を立てたり追い回したり、突然つかんだりしないようにして下さい。触れるときは優しく、乱暴に扱わないように心がけて下さい。また、ゆっくり寝っている時は邪魔をしないようにしてあげましょう。



触ったりお世話をする前後に手を洗う

フクロモモンガは一緒に暮らしていても、人間とは違う生き物です。いくら仲良しでも、人から病気の原因をもらってしまうことがあります。フクロモモンガの環境は不衛生にならないように気を付け、触れる前後に手洗いを忘れないようにしましょう。



事故に注意する

フクロモモンガの行動範囲に、危険なものや場所が無いか注意して下さい。害となる植物やコンセントや電源プラグ、家具の下などのもぐりこめる危険な場所は、ガードしておくか撤去して、イタズラができないように工夫してください。脱走してしまう場合を考え、出入り口にナスカンなどをはめておいたり、思わず隙間に入り込まないようにガードしておくなど、事故にあわない様に注意しましょう。

●たいせつなお願い●

— フクロモモンガは生きています —

フクロモモンガを飼うときはその命が終わるまで、飼い主としての責任と愛情をもって飼育して下さい。

全てのフクロモモンガが、常に健康で人間の思い通りになるわけではありません。飼い主のわがままから途中で見放したり、世話を怠らないようにしましょう。その為にも飼育する生き物の生態について飼い主がよく理解をしておくことが、とても大切です。

また、飼育用品は数多く販売されていますが、全てをカバー出来る物ではありません。生き物は予測不可能な行動をすることがあります。

その用品が自分が飼育しているフクロモモンガに合っているか見極め、事故が起こる前に対応してあげるのも飼い主の責任です。

専門の飼育書や図鑑などで自身の知識を深めることや、主治医を見つけておくことも必要です。



Wisdom of sugar glider

飼い方ブックレット ⑫

フクロモモンガの 知恵袋

迷ぼれ落ちそうな大きな瞳と
滑らかで柔らかい飛膜が自慢のフクロモモンガ。

怖がりなのは、寂しがり屋の裏返し…

信頼できる仲間とのふれあいを心から欲しています。

そんなかわいいフクロモモンガとの生活を始めるための
基本的な事柄を考えていきましょう!



フクロモモンガはナイーブな性格ですが、とても活動的。よく利く耳と五感で、周りが安心できるかを考えています。彼らの生態をよく考えて、正しく接する事が必要です。基本の飼育準備を中心、かわいくて不思議な彼らとの、生活への入り口にご案内します。



Small Animal Products
株式会社 三晃商會
〒562-0035 大阪府箕面市船場東2-3-54
TEL:072-728-3001 www.sanko-wild.com

4 976285 343704

SANKO

<http://www.sanko-wild.com/>

Y37 0821

フクロモモンガとは？

フクロモモンガは、オーストラリア・ニューギニア等の亜熱帯の森で暮らす、樹上性の有袋類です。名前に"モモンガ"とあります、が、げっ歯類のモモンガの仲間ではありません。森で暮らす彼らは、木々を移動する為に必要な飛膜を持ち、飛び移る時に手足を伸ばして飛膜を広げ、"滑空"します。

メスのお腹には特徴的な育児用の袋を持っており、オスは成長すると頭頂部の毛が少し抜けます。平均寿命は5~7年といわれていますが、中には10年以上生き続けることもあります。一緒に時間を大切に、しっかりとお世話をあげるようにしましょう。



フクロモモンガの住まい

暖かい地域に生息している為、寒さには特に弱い動物です。エアコンや保温器具も用いて気温の管理をしっかりする事が大切で、18度~28度が飼育に理想的な温度です。

ケージは、直射日光を避け、静かで、エアコンの風が直接当たらない、安定した台の上などの目線が高くなる場所に置きます。



※パンテオン ホワイトWH4045 を使用した例

●ケージ

身軽に跳躍しますので十分な高さがあり、すり抜けができない様に細かな網目を備えたケージを用意します。

●床材

ケージの底に敷く床材は排泄や水分の吸収が良く、クッション性が良い物を選びます。アレルギー性が少ない素材のウッドチップや牧草等を選びます。



●給水ボトル

いつでも新鮮な水が飲めるように取り付けておきます。



●隠れ家

寝床として隠れ家を用意します。木製等のほか、布製のポーチも安心できる、居場所となります。樹上性の生き物なのでハウスや寝床は高い位置に設定しましょう。



●食器

ひっくり返されないように適度な重みのあり、水分にも強い陶器製がオススメ。



※飼育環境は、個々の年齢や体の大きさ等に合わせて、広さやレイアウト等を見直していくようにしてください。ベビーや離乳前後の幼い時期には、保温がしっかりと出来、安全に過ごせる飼育ケースを別途用意して下さい。

フクロモモンガの食事

野生下のフクロモモンガは昆虫食傾向が強く、時には爬虫類や鳥のヒナ・卵等を食べたり、樹液や花蜜、花や花粉、果実等、幅広く捕食する雑食性の生き物です。飼育下では、フクロモモンガ専用フードの他に、果物や野菜、小動物用ゼリー等の副食を与えるようにして下さい。与える食事は水分が含まれるものが多くなりますので、劣化や腐敗をしないように、食べ残しは早めに片付けるようにして下さい。

フクロモモンガは夜行性の為、食事を夜間に摂る傾向があります。毎日新しいエサを夕方から夜間に用意してあげましょう。毎日のメニューバランスは専門の飼育書などを参考に、フクロモモンガの状況・体調に応じて食事内容を調節をするようにして下さい。

※離乳時の食事内容や与え方は大人とは違うものになります。

その時期に合った食事を与え、専門の飼育書等を確認するようにして下さい。

●ペレット

ペレットは、主体となる栄養を手軽に与えることが出来ます。幼い生体や乾燥したフードが食べ辛いようであれば、ふやかした物を与えると良いでしょう。



●副食

果物や野菜、昆虫類等の副食を補助的に与えて下さい。小動物用に内容を調整したゼリー等も販売されています。特に、甘みのあるフルーツやゼリーは大好きな食べ物のひとつなので上手く食事に取り入れてあげましょう。専門の飼育書などを参考に体調・体重・排泄の状態に応じて食事内容や給与量を調節するようにして下さい。



フクロモモンガに食べさせてはいけないもの

副食やおやつとして、専用フード以外のものを与える時は、フクロモモンガが食べても良いものか文献などで確かめてから与える様にして下さい。フクロモモンガが食べてはいけないものは、人間の生活のまわりに、たくさんあるという事を知り、人間が食べる物でも彼らへの安全性が判断できないものは与えないで下さい。また、人間用に味付け・加工されている食べものは、フクロモモンガに与えないようにして下さい。

「ちょっとだけなら・・・」そのちょっとはフクロモモンガにとって、とても危険です。

より仲良くなる為に

フクロモモンガは、日中には静かに休ませてあげるようにし、活動時間である夜に触れ合う時間を持つと良いでしょう。最初は人や色々な物を怖がって、威嚇音を出す事もありますが、それに驚かず、そっと優しく声掛けたり好物をあげてみましょう。(強要はしないで下さい。まずはフクロモモンガが自分で人間に興味をもって触れてくるのを待つようにして下さい。急に撫で回したり、ついつりしないようにしましょう。)

仲間とのふれあいが好きで、嗅覚も発達していますので、飼い主の匂いの付いた古着等を傍に置いておいたり、フクロモモンガを専用のポーチや寝袋等に入れ、傍に居るようにして、飼い主の匂いや声に慣らすようにすると警戒心が和らぎやすくなるようです。

フクロモモンガは、匂いによるコミュニケーションを大事にする生き物です。自分の縄張りを示す為に、おしゃこや自分の匂いをあらわす物に擦り付ける習性があります。フクロモモンガの住環境は汚れが付着しやすくなりますので、清潔を保てるように小まめな清掃が必要です。ただし、ケージ等のお手入れの際は使っている寝袋を残してあげる等、すべての匂いを落としてしまわないようにしてあげて下さい。

フクロモモンガの飼育には、愛情あるお世話と正しい知識が必要です。必ず、専門の飼育書を確認するようにして、健康についてはフクロモモンガを診療できる獣医師に相談をして下さい。

